

「静かなる音」  
見る／くに 羽咋の方ゆ  
音立て、はまひるがほに  
降り来るなり  
(「倭をぐな」)  
釈 遥空

国学院大学 令和4年6月20日(月) 定期号(毎月20日発行) 1部20円  
[発行]国学院大学 [編集]総合企画部広報課 〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目 [電話]03(5466)0130 [FAX]03(5466)0528

祭儀 ■大祓(夏越の祓) 6月30日(木) 午後4時 神殿前庭 ■月次祭 7月1日(金) 午前10時 神殿

## 子育てはみんなで

# 子どもを受容する 社会の醸成を

### 人間開発学部 子ども支援学科 山瀬範子准教授に聞く

男性が子育てしやすい制度が整いつつある。令和4年4月、改正育児・介護休業法が施行され、企業などに育休取得対象者への意思確認が義務付けられた。10月からは通常の育児休業とは別の「産後パパ育休(出生時育児休業)」も始まる。

男性の育休取得が進み、育児参加の加速が期待されるが、国学院大学人間開発学部・子ども支援学科の山瀬範子准教授(教育学、教育社会学)は「子育ては母親、父親だけではなく、社会全体で行う必要がある」と話す。

日本では育児の形はどう変化してきたのか。戦前、農業など第1次産業が中心で、家族構成が3世代同居だった時代は、母親は子どもを祖父母に預け家業で働いていた。

その形が変化したのが、戦後の高度経済成長期だ。産業構造が変わり、働く場を求めて都市部に人が集中した。男性が企業などに通勤することで、物理的に仕事場と離れた女性は、家庭で家事と育児を担うようになり「専業主婦」という言葉が生まれた。流れが変わったのが昭和61年。男女雇用機会均等法が施行され、女性の職場進出が加速した。活躍の場が広がった一方、女性は仕事、家事、育児を抱え、負担が増していく。対応策として、国は子育てに対する父親、母親の共同責任の浸透を狙い、施策を打ち出してきた。今回の育児・介護休業法の改正もその1つだ。

山瀬准教授は「育児は初めての経験の連続で、戸惑うのは当たり前。抱え込まずに子育て支援の仕組みを利用するなど周囲に頼ってほしい」と話す。中面では山瀬准教授に日本における育児の変遷や課題を聞いた。

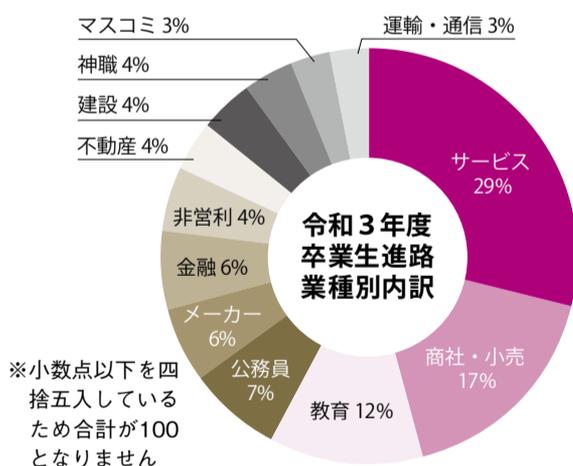


4・5面に関連記事

## みはるかすもの

屋外でほとんど会話がないならマスク着用は必要なし——5月23日、政府が新型コロナウイルス感染症の基本的対処方針を改定した際に盛り込んだ見解だ▼ただし、人と2m以上の間隔が確保できない場合や屋内では引き続き着用を呼びかけている▼感染拡大とともに、政府や専門家がコロナ対策としてマスク着用を推奨し始めると、マスク購入のためにドラッグストアには開店前から行列ができるようになった▼マスクを購入できないことへのいら立ちを店員にぶつける、高額転売を目的とした悪質な買い占めが起きるなどモラルが問われる出来

事のニュースも数多く流れた▼今回の緩和は、人流の制限緩和などと合わせ、徐々に以前の生活に戻っていくことの一つの象徴だろう。だが、特に若者世代の心境は複雑なものがあるようだ▼この3年間で新たに会った人の「マスク無しの顔を知らない」という経験は誰もあるのではないかと。そのため、「イメージと違った」と思われることを恐れ、マスクを外したくないと考える人たちがいるという▼最初は息苦しさを感じていたものが、当たり前となり、無いと不安になる——コロナ禍の影響がいかに大きいかを改めて実感する▼これもコロナ禍が生み出した悩みの一つ。マスクを外して友人たちと交わす笑顔が、その不安を少しづつでも和らげてくれると信じたい。



6月1日には令和5年3月卒業予定者の採用活動が解禁となった。全国的なワクチン接種率の向上や感染者数の減少傾向を受け、企業は人柄を把握しやすいとしてオンライン面接から対面接に戻す動きも広がっている。キャリアサポート課の担当者には「就職活動を継続中の4年生にはWEBでの合同企業説明会など引き続きサポートを行っているのでぜひ活用してほしい。採用の早期化傾向も継続しており、下級生もインターンシップや企業セミナーへの参加など、勉学とあわせ就職活動も意識してほしい」としている。

## 令和3年度卒 就職率94.9%

### 昨年度比1.1ポイントの増加

令和4年3月卒の国学院大学卒業生の就職率は、94.9%と昨年度から1.1ポイント増加した。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、昨年度は全国的に雇用環境が悪化。今年度の大卒有効求人倍率は昨年度とほぼ同水準であったが、従業員1000人以上の大手企業を中心に新卒採用意欲が回復傾向にあり、本学就職率も微増となった。

公務員は国家・地方合わせ146人(昨年度から4人増)となり、教育関係では、小、中学校、高等学校、幼稚園、特別支援学校の教員と保育士を合わせ230人といずれもほぼ昨年度並みとなった。各自治体による教員採用試験に合格し、公立の幼稚園、小、中学校、高校の正規採用となった新卒生は83人だった。神社関係では、118人の神職資格取得者のうち、87人が神社界(奉仕先神社が実家の場合も含む)に進んだ。

# 彬子女王殿下と学生がコメ作り体験 3年ぶりにワークショップに参加

田植えを終えた彬子女王殿下と参加者



本学学生が日本文化の根底の一つである稲作を体験する「新潟コメ作りワークショップ」が5月28日、新潟市北区の水田で開催された。このワークショップは、本学特別招聘教授の彬子女王殿下「写真上・前列左から5人目」が総裁を務められる一般社団法人「心游舎」が日本文化の伝承活動の一環として実施するもので、本学学生9人や地元農家の方など約40人が参加した。

令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で本学学生の参加は見合わせており、3年ぶりの田植え体験となった。例年は田植え前日に行っていたコメ作りを学ぶ座学を見送り、参加人数も制限するなど感染予防策を講じての実施となった。

彬子女王殿下と学生たちは地元の伝統的な農作業服である「やまぎもん」に着替ると水田へ移動。学生たちは水田の泥に足を取られ苦労しながらも、協力農家の方からの指導を受け、一苗ずつ丁寧に植えていった。参加した横山仁貴さん(観まち1)は「田植えに参加でき、新鮮な体験だった」と笑顔を見せ、篠原咲陽さん(神文4)は「田植えと稲刈りは体験したことがあったが、改めて農業の大切さやコメ作りで手間暇をかける大切さを感じた。ぜひ後輩たちにも参加してもらい、貴重な日本文化を体験する機会を繋げてほしい」と4年生として思いを語った。

本学学生が日本文化の根底の一つである稲作を体験する「新潟コメ作りワークショップ」が5月28日、新潟市北区の水田で開催された。このワークショップは、本学特別招聘教授の彬子女王殿下「写真上・前列左から5人目」が総裁を務められる一般社団法人「心游舎」が日本文化の伝承活動の一環として実施するもので、本学学生9人や地元農家の方など約40人が参加した。



手作業で苗を植える学生ら



「横浜の都市デザインと郊外住宅地のこれから」と題して講演する秋元氏

## 横浜の都市デザイン50年を学ぶ 観光まちづくりカフェ

観光まちづくり学部が主催する「観光まちづくりカフェ」が5月25日、たまプラーザキャンパスで開催され、教職員、学生約50人が参加した。西村幸夫学部長は、「観光まちづくりカフェは年4回開催する予定で、教職員、学生と一緒に学ぶことをやりたい。今回は、私たちが今いる横浜市のことをきちんと振り返るいい機会だ」と開会のあいさつ。続いて横浜市役所で都市デザイン室長などを歴任し、長年にわたって横浜のまちづくりに携わってきた都市プランナーの秋元康幸氏が講演した。

秋元氏は、六大事業と言われる大規模都市計画をはじめとする横浜市の都市デザイン行政の50年の歴史や、市の大部分を占める郊外住宅地を抱える施設の老朽化、空き家の増加などの課題とそれに対する市の取り組みなどを紹介。「学生が地域に入っていくことは大事だ。これからは、大規模なまちづくりではなく、市民や地域の活動を変えていくチャレンジが多いのではないかと締めくくった。

続いて、秋元氏と学部教員によるトークセッションが行われ、学生が盛んに質問し、参加者が一体となって地元の理解を深めた。

## 地域を学ぶ「観光まちづくりライブラリー」を開設

今年4月に開設された観光まちづくり学部は、付属組織である地域マネジメント研究センターの「観光まちづくりライブラリー」を5月23日、たまプラーザキャンパス若木21に開設した。ライブラリーは学部の学びや観光まちづくりに関する専門図書・資料、情報の収集・提供・保存を目的に、社会学、民俗学、公共政策、都市計画、観光事業などの図書・雑誌を排架。地域情報誌や専門紙も取りそろえ、学際的に地域を動かす学びを進める学生たちを支える。蔵書数は3000冊程度を見込んでおり、司書資格を有する研究員らによるレファレンス・サービスも開館時間内に対応する。

館内には、4月に連携協定を締結した岐阜県高山市の飛騨家具メーカーのテーブル、いす、棚が用意され、地場産品に触れながら、学修や研究を進めることができる。

開館は、平日の10時30分から17時(土日祝日は休館)。大学が定める休日を除き、通年で開館する。図書・雑誌などの閲覧は館内のみで、一部の図書は手続きを行ったうえで同時に5冊までの貸し出しが可能。



## 相模原市と包括連携協定を締結



相模原市提供

学校法人国学院大学(理事長:佐柳正三=写真左)と相模原市(市長:本村賢太郎=写真右)は5月30日、地域の課題解決や活性化を図り、同市のまちづくりに寄与することを目的とした包括的・継続的な連携に関する協定を締結した。

今後は本学の知見を生かし、さまざまな分野で協力・連携を進める予定。

## 学校法人国学院大学人事

- ◆評議員  
【選任】▷西村幸夫 令和4年4月1日付  
※任期は令和5年3月31日まで
- ◆参与  
【退任】▷黒神公直 令和4年3月25日付  
【選任】▷江口幸子 令和4年4月1日付  
▷平野富康 令和4年4月1日付  
※任期は令和5年3月31日まで

## 名誉教授の称号 5氏に授与



国学院大学は、令和3年度をもって退職した5人の元教授へ名誉教授の称号を贈ることを決定し、授与式を6月8日に渋谷キャンパスで行った。

はじめに、針本正行学長が「長年の教育研究への貢献に感謝申し上げる。特にこの2年間、コロナ禍であっても学生の学修機会を守るためご尽力いただいた」とたたえ、一人一人に称号記を手渡した。対象者は次のとおり(敬称略)。

- ◆文学部 = 齊藤こずゑ
- ◆法学部 = 関哲夫、中川徹也
- ◆神道文化学部 = 茂木貞純
- ◆人間開発学部 = 柴崎和夫

## 高校教員対象に入試説明会

高校教員を対象に本学の入試制度や教育の特徴などを説明する入試説明会が5月27日、渋谷キャンパスで開催された。

説明会冒頭、針本正行学長が「この説明会が先生方の受験生に対する進路指導の一助となれば」とあいさつ。続いて入学課職員が令和4年度入試の実績と令和5年度入試制度の変更点などを説明した。

4月に開設した観光まちづくり学部の説明も行われ、米田誠司教授が新入生アンケートの結果を踏まえ「首都圏以外の地域へ就職を考えているという回答が多くみられ、地域に関心を持つ学生が集まった。観光を基軸とした持続可能なまちづくりを学び、地域の魅力を発掘し、住民との連携を継続できる人材育成を学部の目標に掲げている」と述べた。

説明会後には個別相談を行い、各学部の教員が来場者からの質問に応じた。

# 令和3年度 決算

令和3年度学校法人国学院大学決算は、監事および監査法人の監査を経て、5月26日に開催された理事会で承認、同日開催の評議員会に報告、了承された。

令和3年度は「21世紀研究教育計画(第4次)」の最終年度であり、計画の総括の年となった。本年度も新型コロナウイルス感染症による影響は大きく、変更または中止を余儀なくされた計画がある一方、他大学に先駆けた職域接種を実現させるなど、新たな生活様式に対応する取り組みを積極的に行った。

学生・生徒・園児が安全で安心な修学機会を確保するとともに、目標(国学院ブランドの確立と強化)の実現と中長期的財政基盤の安定に努めた結果、基本金組入前当年度収支差額は9億2900万円の収入超過となり、厳しい状況下においても堅調な決算となった。

※詳細は本法人ホームページをご覧ください

「財務部長 課」

## セントマイケルズ大学交流ツアー 渋谷キャンパスで学生間交流



セントマイケルズ大学(米国)の学生7人が5月19日、渋谷キャンパスを訪問し本学学生と交流を深めた。この訪問は国際交流に関する協定を締結している本学・同大学間での学生交流の一環として開催されたもの。

一行はまず神殿を参拝し、神職資格をもつ本学職員から手水などのレクチャーを受けた。写真は、その後は、いくつかのグループに分かれ、本学学生が英語で案内をしながら渋谷の街を散策した。学食での昼食体験の後、キャンパスツアーで図書館やみちのきち、本学博物館などを巡り、最後は英語で日本文化を学ぶ「Japan Studies」の講義を体験し一日を締めくくった。

## 若木育成会 本部総会を開催 学生支援事業計画など承認



在学生の保護者などで組織される国学院大学若木育成会の全国支部長事務連絡会と本部総会が、5月14日に3年ぶりに本学渋谷キャンパスで開催された。

本部総会では、森伸一会長が「にこやかに通学する学生たちの姿を見て、ウィズ・コロナの大学生活を感じた。本会は今後もしっかりと学生に寄り添って支援していけるように運営していきたい」、針本正行学長が「コロナ禍で学生が感じる不安を受け止め、教職員一体で学修支援に努める。保護者のご理解、ご協力をお願いしたい」とそれぞれあいさつした。

続く議事では、前年度事業報告および決算報告のほか、学生の進路・就職活動、国際交流、課外活動への支援など今年度の事業計画と予算に関する審議を行った。

役員選出では、森会長と副会長の増田久美子氏、藏重命弘氏、会計監査の有賀洋氏、清野美保子氏、田中太氏の再任が承認された。



井上毅

井上毅は、天保14(1843)年、熊本藩の陪臣の子として生まれた。幼年時から秀才の誉れ高く、藩校時習館の居寮生(特待生)となり、朱子学を中心に漢学の修学に励んだ。幕末にはフランス語も学び、明治5(1872)年司法省から岩倉使節団の一員としてフランスに派遣され、帰国後、『治罪法備攷』をはじめとする司法四部作を著して、拷問の廃止など司法制度の近代化を提唱した。明治十年政変では、プロイセン型立憲政体の採用を主張して、政変の舞台回しの一人として活躍し、19年秋からは伊藤博文の命を受けて本格的に憲法の起草に着手し、憲法制定の中心的な役割を担った。今日、伊藤博文の名で刊行されている『憲法義解』(岩波文庫・令和元年新版刊行)も、実質的には井上毅の著作である。憲法のほかにも、国会開設の勅諭・憲法発布の勅語、教育勅諭などの詔勅をはじめ、多数の法律の起草や政策の立案に関与し、「明治政府の智恵囊」と称された。

その井上毅が遺した文書と図書が「梧陰文庫」である。憲法関係の調査書類や草稿を含む6603点の文書と872点の図書からなり、現在、国学院大学図書館に所蔵されている。昭和32(1957)年に井上毅の継嗣・井上匡四郎氏(工学博士・第一次若槻礼次郎内閣の鉄道大臣)の篤志によって国学院大学に永久寄託され、その後、58年に寄贈へと切り替えられた。「梧陰」とは井上毅の号であり、それにちなんで国学院大学は井上毅の遺文書に「梧陰文庫」と名付けたのである。「梧陰文庫」は、日本近代史を読み解く上で中核となる貴重な資料群である。特に、その重要なものを活字化した、『井上毅伝史料篇』全6巻(昭和33年・平成18年)、『井上毅伝外篇近代日本法制史料集』全20巻(平成7-11年)は、明治政治史研究の不可欠な資料となっている。国学院大学では、文書の寄託とともに、法学部を中心に「梧陰文庫研究会」を組織して、その解明を進めてきた。国学院大学百周年を記念して企画された、『梧陰文庫影印・明治皇室典範制定前史』(昭和57年)、『梧陰文庫影印・明治皇室典範制定本史』(61年)は、その記念碑的業績である。ただ、井上毅の実像の解明については、長年の研究蓄積と近年の研究動向の変化にもかかわらず、なお今後の研究の進展にまつところも少なくない。

法学部教授 坂本一登

## 資金収支計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位:百万円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	増減	科目	予算	決算	増減
学生生徒等納付金収入	13,565	13,588	△23	人件費支出	9,990	9,880	110
手数料収入	666	706	△40	教育研究経費支出	4,122	3,886	236
寄付金収入	253	278	△25	管理経費支出	1,271	1,123	148
補助金収入	2,664	2,820	△156	借入金等利息支出	11	11	0
資産売却収入	0	28	△28	借入金等返済支出	850	854	△4
付随事業・収益事業収入	122	125	△3	施設関係支出	236	236	0
受取利息・配当金収入	171	196	△25	設備関係支出	618	545	73
雑収入	437	522	△85	資産運用支出	3,389	3,357	32
借入金等収入	501	501	0	その他の支出	463	587	△124
前受金収入	2,687	2,913	△226	予備費	429		429
その他の収入	1,716	1,786	△70	資金支出調整勘定	△374	△364	△10
資金収入調整勘定	△2,979	△3,014	35	当年度支出合計	21,005	20,115	890
当年度収入合計	19,803	20,449	△646	翌年度繰越支払資金	8,069	9,605	△1,536
前年度繰越支払資金	9,271	9,271	0				
収入の部合計	29,074	29,720	△646	支出の部合計	29,074	29,720	△646

## 事業活動収支計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位:百万円)

事業活動収入の部					事業活動支出の部				
科目	予算	決算	増減	科目	予算	決算	増減		
学生生徒等納付金	13,565	13,588	△23	資産売却差額	0	28	△28		
手数料	666	706	△40	雑収入	43	51	△8		
寄付金	250	275	△25	その他の特別収入	28	53	△25		
経常費等補助金	2,646	2,789	△143	特別収入計	71	132	△61		
付随事業収入	122	125	△3	資産処分差額	28	563	△535		
雑収入	437	498	△61	その他の特別支出	0	0	0		
教育活動収入計	17,686	17,981	△295	特別支出計	28	563	△535		
人件費	9,873	9,799	74	特別収支差額	43	△431	474		
教育研究経費	6,095	5,841	254	[予備費]	429		429		
管理経費	1,398	1,247	151	基本金組入前当年度収支差額	94	929	△835		
教育活動支出計	17,366	16,887	479	基本金組入額合計*	△1,014	△1,166	152		
教育活動収支差額	319	1,094	△775	当年度収支差額	△920	△237	△683		
受取利息・配当金	171	223	△52	前年度繰越収支差額	△11,526	△11,526	0		
その他の教育活動外収入	0	53	△53	基本金取崩額	0	2,407	△2,407		
教育活動外収入計	171	276	△105	翌年度繰越収支差額	△12,446	△9,356	△3,090		
借入金等利息	11	11	0						
その他の教育活動外支出	0	0	0	(参考)					
教育活動外支出計	11	11	0	事業活動収入計	17,928	18,390	△462		
教育活動外収支差額	160	265	△105	事業活動支出計	17,834	17,461	373		
経常収支差額	479	1,359	△880						

※第1号基本金 | 8億5300万円 教育の質向上のために取得した固定資産の価格  
 第2号基本金 | 3億円 教育の質向上のために将来取得する固定資産取得に充てるもの  
 第3号基本金 | 1300万円 基金として継続的に保持しかつ運用する資産となるもの

## 貸借対照表

令和4年3月31日

(単位:百万円)

資産の部				負債および純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	117,869	117,270	599	負債の部	13,312	13,556	△244
有形固定資産	66,681	68,541	△1,860	基本金総額	124,004	125,245	△1,241
特定資産	48,284	45,852	2,432	第1号基本金	104,926	106,480	△1,554
その他の固定資産	2,904	2,877	27	第2号基本金	2,800	2,500	300
流動資産	10,091	10,005	86	第3号基本金	15,227	15,214	13
				第4号基本金	1,051	1,051	0
				繰越収支差額	△9,356	△11,526	2,170
				純資産の部合計	114,648	113,719	929
資産の部合計	127,960	127,275	685	負債および純資産の部合計	127,960	127,275	685

## ● 明治史を読み解く重要文書

### 井上毅と梧陰文庫

井上毅は、天保14(1843)年、熊本藩の陪臣の子として生まれた。幼年時から秀才の誉れ高く、藩校時習館の居寮生(特待生)となり、朱子学を中心に漢学の修学に励んだ。幕末にはフランス語も学び、明治5(1872)年司法省から岩倉使節団の一員としてフランスに派遣され、帰国後、『治罪法備攷』をはじめとする司法四部作を著して、拷問の廃止など司法制度の近代化を提唱した。明治十年政変では、プロイセン型立憲政体の採用を主張して、政変の舞台回しの一人として活躍し、19年秋からは伊藤博文の命を受けて本格的に憲法の起草に着手し、憲法制定の中心的な役割を担った。今日、伊藤博文の名で刊行されている『憲法義解』(岩波文庫・令和元年新版刊行)も、実質的には井上毅の著作である。憲法のほかにも、国会開設の勅諭・憲法発布の勅語、教育勅諭などの詔勅をはじめ、多数の法律の起草や政策の立案に関与し、「明治政府の智恵囊」と称された。

その井上毅が遺した文書と図書が「梧陰文庫」である。憲法関係の調査書類や草稿を含む6603点の文書と872点の図書からなり、現在、国学院大学図書館に所蔵されている。昭和32(1957)年に井上毅の継嗣・井上匡四郎氏(工学博士・第一次若槻礼次郎内閣の鉄道大臣)の篤志によって国学院大学に永久寄託され、その後、58年に寄贈へと切り替えられた。「梧陰」とは井上毅の号であり、それにちなんで国学院大学は井上毅の遺文書に「梧陰文庫」と名付けたのである。「梧陰文庫」は、日本近代史を読み解く上で中核となる貴重な資料群である。特に、その重要なものを活字化した、『井上毅伝史料篇』全6巻(昭和33年・平成18年)、『井上毅伝外篇近代日本法制史料集』全20巻(平成7-11年)は、明治政治史研究の不可欠な資料となっている。国学院大学では、文書の寄託とともに、法学部を中心に「梧陰文庫研究会」を組織して、その解明を進めてきた。国学院大学百周年を記念して企画された、『梧陰文庫影印・明治皇室典範制定前史』(昭和57年)、『梧陰文庫影印・明治皇室典範制定本史』(61年)は、その記念碑的業績である。ただ、井上毅の実像の解明については、長年の研究蓄積と近年の研究動向の変化にもかかわらず、なお今後の研究の進展にまつところも少なくない。

学問ノ道 第43回

# 女性の育児時間 は男性の **2.5倍超**

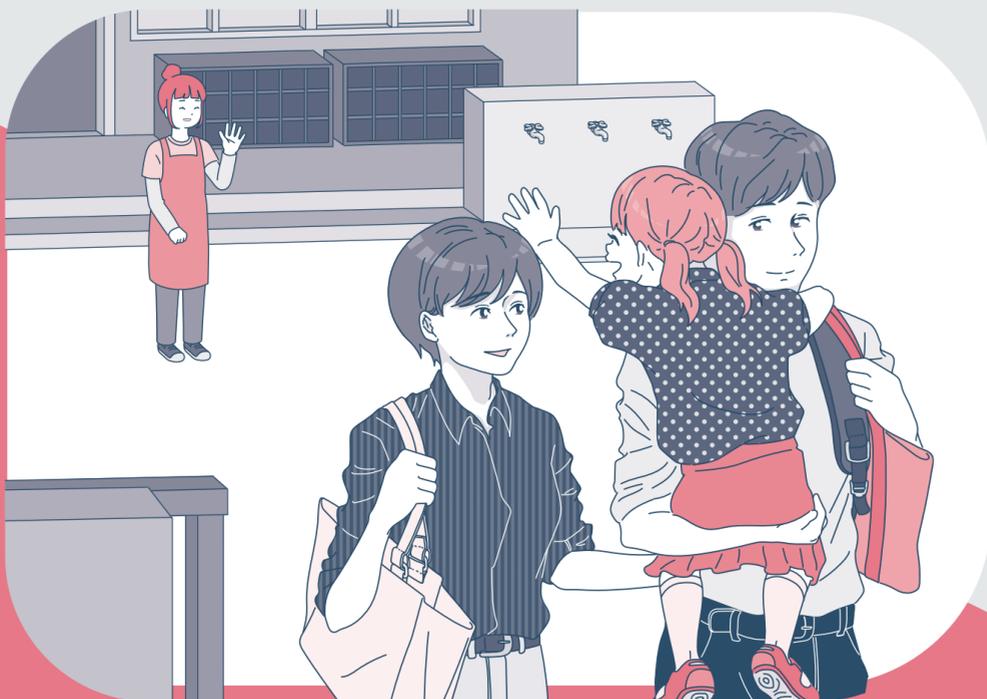
女性の職場進出のきっかけとなったのが昭和61年に施行された男女雇用機会均等法だ。その後のバブル崩壊による景気の減速も共働き世帯増加の要因になった。

働き始めた女性は家事や育児に加え、仕事も担うようになり負担が大きくなっていく。国は子育てに対する父親、母親の共同責任を浸透させようと、施策やキャンペーンを打ち出した。

平成11年、厚生省（現・厚生労働省）が作成した1枚の啓発ポスターが大きな注目を集めた。当時、人気があった男性タレントが乳児を抱っこした写真で「育児をしない男を、父とは呼ばない。」と書かれている。さらに厚生労働省は平成22年から、男性の子育て参加や育児休業取得の促進などを旨とする「イクメンプロジェクト」を進めている。

しかし現状では、男性の育児や家事への参加は十分とは言えない。令和3年度に東京都が行った男性の家事・育児に対する意識調査（東京都男女雇用平等参画状況調査）によると、未就学児がいる家庭で、女性の1日あたりの育児時間は平均6時間10分。男性の2時間15分の2.5倍を超えている。女性の家事負担も大きい。1日あたりの家事や買い物にかかる時間は女性が2時間38分で、男性の1時間10分の2倍を超える。

山瀬准教授は育児に対する男女差の一例として、こんなエピソードを挙げる。「父親が保育園に迎えに行くと、周囲からすぐ褒められる。でも、子どもが高熱を出し、母親が仕事を休んでも誰からも評価されず当然という雰囲気になる」



## 男性の育休取得 職場の理解が不可欠

こうした現状を変えるにはどんな施策が必要か。山瀬准教授は「育児を受容する社会を形成することが大事」と話す。例えば男性が育児休暇を取得する時には、会社の管理職や上司の理解が欠かせない。「女性の育児不安は、社会から隔絶されていることに起因するケースが多いが、男性はキャリアが断絶されることに対する不安が大きい」（山瀬准教授）。育休への心理的なハードルを越えるためには、会社全体のサポートや職場の環境づくりも必要になる。

また、山瀬准教授は「初めての育児で両親ともに『頑張らなくて』と肩に力が入っていることもある。親が弱音や不

安を発することを受け入れ、解決策を提示する環境整備も進める必要がある」と指摘する。

育児に悩んだ時には自治体などのさまざまな子育て支援施設を利用することも選択肢の一つだ。幼稚園や保育園、認定こども園のほかにも、親子で利用できる地域の児童館や、事前登録すれば子どもの送迎や一時預かりを担うファミリーサポートセンターもある。家事にかかる時間を短縮できる家電や、便利な育児グッズの利用も負担軽減につながる。

山瀬准教授の育児をテーマにした講義を受けた学生からは「できなくて当たり前と考えることが大事だと思った」「子

どもが好きだから親になれば育ていけるだろうという考えが変わった」などの感想が寄せられるという。「学生にお願いしているのは、周囲から育児の辛さを打ち明けられた時に、否定せずにその人の素直な思いを受け入れてほしいということ。『親だから子どものためになんでもできて当然』と思わないでほしい」

山瀬准教授は「子どもではなかった大人は一人もいない。地域で育てた子どもが、成長して大人になり地域をつくっていく。子育ての良い循環ができればより成熟した社会になるだろう」と語る。

# 子育ての好循環 対話と共感が鍵に

数時間おきのミルクづくりやオムツ替え、夜泣きへの対応——。育児は戸惑いの連続だ。日々、子どもが成長する喜びを感じる一方で、プレッシャーや不安に心が押しつぶされそうな時もある。かつて「女性がするもの」と言われた育児は、女性の職場進出や社会の意識の変化で、男女が分担するものになりつつある。国学院大学人間開発学部・子ども支援学科の山瀬准教授は「育児に疲れた親が『しんどい』と言える環境を社会がつくり、受け止めることが大切」と話す。山瀬准教授に日本の子育ての変化や、親になる心構えを聞いた。



## 専業主婦 が生まれたのは戦後

家事や育児は女性と男性が分担するものという意識が浸透し始めているが、これまで日本社会の中で根強かった「育児は女性がするもの」という考えはいつから始まったのだろうか。

実は、日本で「専業主婦」という言葉が生まれたのは戦後になってから。戦前の日本は農業など第1次産業が中心で、女性も仕事を担っていた。家族形態は大家族で、3世代同居が一般的だったため、女性が子どもを祖父母に預けて働くことも普通だった。

女性の役割や家族形態が大きく変わったのは戦後、高度経済

成長期に入ってからだ。日本の産業構造は第1次産業中心から、第2次産業、第3次産業へと変化した。

都市部に人が集まり、企業は労働力を確保するために主に男性を終身雇用、年功序列賃金などで正社員として待遇した。

こうした流れとともに、職場と家庭が物理的に切り離され、女性は家で育児と家事を任されるようになった。山瀬准教授は「『サザエさん』のような3世代が同居する家族構成から、『ドラえもん』のような核家族へと家族構成が変化していったのもこの頃」と説明する。



### やませ・のりこ

修士（教育学）。専門は教育学、教育社会学。四国大学短期大学部助教、同講師を経て現職。幼児教育や保育の役割の変遷、保育者養成や家族の在り方などについて幅広い研究を行っている。父親の育児参加についても、職業や育児に関する人間関係、幼少期の子どもの世話体験との関係性など多角的な研究を行っている。

詳細は本学HP「国学院大学メディア」に掲載



人間開発学部教員によるさまざまな子育て、教育関連記事も掲載しています。

「道徳は『より善く生きる』ための旅」  
人間開発学部教授 田沼茂紀



「なぜ今、キャンプに惹かれるのか  
自然の中で育まれる『感性』が、人生にもたらすもの」  
人間開発学部准教授 青木康太郎



▶男女雇用機会均等法 募集・採用や昇進、部署配置など雇用管理での性別による差別や、結婚、妊娠・出産などを理由とした女性労働者への不利益な扱いなどを禁止し、労働者が雇用分野で均等な機会を得て、意欲や能力に応じた待遇を受けられるようにすることを目的とした法律。また、女性労働者が母性を尊重されつつ、職業生活を営めるようにすることも目的とする。昭和61年4月1日施行。平成29年には、妊娠・出産などに関するハラスメントの防止義務が新設された。正式名称は「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律」。

▶育児・介護休業法 子育てや介護などをしなければならぬ労働者が、仕事と無理なく両立できるように配慮し、労働を継続できるように支援することを目的とする法律。産前産後休業や育児休業、介護休業など支援制度を設ける雇用環境の整備とともに、支援制度の利用を理由とした解雇や減給などの不利益な取り扱いを禁止している。平成4年4月1日施行。正式名称は「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」。

# インフォダイジェスト

…在学生 …保護者 …卒業生 …一般 …受験生  
内容 日にち 時間 場所 対象 申し込み 料金 問い合わせ

## 大学からのお知らせ

### 若木育成会の支援を受け 学食で学部・専攻科・別科生向け料金

在学生在の保護者らで組織する若木育成会の支援を受

け、本学学部生、専攻科・別科生は渋谷・たまプラーザ両キャンパスの学生食堂で、一部のメニューが50円から100円引きの料金で利用できます。学生向け料金の券売機を利用してください。

※学食利用の際は、手指消毒や黙食など感染予防策に協力をお願いします

## イベント



### 高校生向けコンテスト作品募集

#### ①第26回全国高校生創作コンテスト

【部門】

- ▶ 短篇小説の部（1人3篇以内＝1篇4000字以内）
- ▶ 現代詩の部（1人3篇以内＝1篇45行以内）
- ▶ 短歌の部（1人3首以内）
- ▶ 俳句の部（1人3句以内）

【表彰】最優秀賞（各部門1人、賞状・副賞5万円・記念品）、優秀賞（各部門2人、賞状・副賞3万円・記念品）、佳作（各部門5人、賞状・記念品）、文部科学大臣賞（1校、賞状・副賞5万円相当の図書カード・記念品）

#### ②第18回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト

【部門】

- ▶ 地域文化研究部門（祭り・伝統行事・郷土料理・方言などの調査研究＝個人・団体）
- ▶ 地域民話研究部門（昔話・伝説など民話の調査研究＝個人・団体）
- ▶ 学校活動部門（学校やクラス単位での生徒による調査研究や活動実績に関する報告に、活動を通じて生徒の「学び」がどのように向上したかについて担当教員によるレポートを加えたもの）

【表彰】

- ▶ 地域文化研究部門・地域民話研究部門：最優秀賞（個人・団体各1作品、賞状・副賞5万円・記念品）、優秀賞（個人・団体各2作品、賞状・副賞3万円・記念品）、佳作（個人・団体各2作品、賞状・記念品）
- ▶ 学校活動部門：優秀賞2校（賞状・副賞3万円相当の図書カード・記念品）
- ▶ 折口信夫賞：1作品（賞状・研究費5万円・記念品）

#### ③応募について

【応募期間】7月1日(金)～9月9日(金)必着

【応募条件・概要】

- ▶ 高校生であること ▶ 自作未発表のもの

【応募方法】各コンテストのホームページ（QRコード）にアクセスしてください。

### ▶WEB応募

ホームページにある受付フォームから必要事項を入力して登録してください。作品の提出は、登録後に提出方法をメールでお伝えします。

### ▶郵送応募

ホームページから専用の応募用紙を印刷し、必要事項などを記入して応募してください。



第26回全国高校生創作コンテスト



第18回地域の伝承文化に学ぶコンテスト

【発表】11月中旬に入賞者に通知、主催者HPでも公表します。

☎高校生新聞社コンテスト事務局

(☎042・724・2750、☎042・724・2860)

※お知らせいただいた個人情報は、主催者において本コンテストの審査、本人および学校への連絡や資料の発送に利用いたします。なお、個人情報を第三者に提供することはありません。応募作品は、当主催者に著作権を帰属し、返却いたしません

### 渋谷区民大学講座「豊臣政権研究の新視点」

このたび、国学院大学エクステンションセンターでは「豊臣政権研究の新視点」と題し、渋谷区民大学講座を開催いたします。渋谷区民以外の方もご参加いただけますので、たくさんの方々のご参加をお待ちしております。講師は矢部健太郎文学部教授。

Zoomによるオンデマンド配信のため、ご都合に合わせた時間、場所で何度でも聴講可能です。

☎配信中～7月27日(水)

🆓無料

📄申込専用フォーム（QRコード）から

☎エクステンション事業課

(☎03・5466・0270)



### 令和4年度 オンライン公開講座 「スポーツを通じた人間力の育み方」

五輪の日本選手団を編成する日本オリンピック委員会では、「人間力なくして競技力向上なし」という

## キャリアサポート

※詳細確認・申込はK-SMAPY IIで行ってください  
※問い合わせはキャリアサポート課(☎03・5466・0151)

### 第2回WEB合同企業説明会

本学学生の採用意欲が高い優良企業をお招きして開催する学内合同企業説明会です。就職活動を継続されている方はぜひ活用してください。

☎7月20日(水)

🎯4年生

📄K-SMAPY IIで事前申し込み

### 夏季休暇活用ガイダンス

公務員を目指す人にとって、夏季休暇をどう過ごすかが大きな分かれ道となります。筆記試験対策をはじめ夏季休暇期間に大きく成長するためのヒントをお教えします。

☎7月5日(火)

🎯2～3年生

📄K-SMAPY IIで事前申し込み

### <インターンシップ対策講座> 就活マナー・インターンシップ準備講座

就職活動に必須のビジネスマナーについて、動作の解説・実践を行います。また、インターンシップ参加に向け目標設定も行いますので、インターンシップ参加予定の学生は積極的に参加をしてください。

☎7月6日(水)

🎯1～3年生

📄K-SMAPY IIで事前申し込み

スローガンを掲げており、競技力や勝敗だけではなくスポーツの魅力や価値などについて、近年注目が高まっています。

本講座では五輪選手やプロ野球選手などトップアスリートの育成・パフォーマンス向上に関わった経験を持つ教員が、3回に分けてそれぞれの経験の一端をご紹介しますとともに、スポーツを通じた人間力育成の可能性について語ります。人間開発学部健康体育学科教員の経験と専門の幅広さを生かした今までにない講座となりますので、ぜひご参加ください。Zoomによるオンデマンド配信。

☎7月13日(水)～8月31日(水)配信

🎯4500円(全3回)

📄申込専用フォーム（QRコード）から

☎エクステンション事業課

(☎03・5466・0270)



## 新型コロナ関連のお知らせ

### 感染症予防／登校時の留意事項

キャンパス内での集団感染を防ぐため、「基本的な感染症対策」や「対面授業など登校時の具体的な留意事項」などを心がけてください。

#### ●基本的な感染症対策

- ◇マスクの着用と咳エチケットの徹底
- ◇手洗いや手指消毒の徹底
- ◇3密（密閉・密接・密集）を避ける取り組みを
- ◇換気（窓や扉の開放またはエアコン作動により）
- ◇ワクチン接種

#### ●感染リスクが高まる場面に注意

- ◇飲酒を伴う懇親会や大人数での飲食
- ◇マスクなしでの会話
- ◇休憩・移動時の気の緩み(教室移動・更衣室など)

#### ●対面授業など登校時の具体的な留意事項

- ◇毎朝検温をし、「検温表」に記載・持参を

- ◇食事の際は個食、黙食の心がけを
- ◇体がだるい、熱がある、喉に違和感があるなど、いつもと体調が異なる時は登校を控え（登校後は帰宅し）、医療機関受診を
- ◇ワクチン関連の欠席（接種日・副反応）は、K-SMAPY IIのQ & Aで、担当教員へ連絡を

### 陽性／濃厚接触の場合は報告を

新型コロナウイルス感染症に陽性／濃厚接触となった場合は以下の報告フォームに入力してください。必要に応じ保健室から電話で詳細を確認します。

[本学HP] ▶ [在学生・保護者] ▶ [学生生活支援] ▶ [保健室] ▶ [登校停止感染症の手続き] ▶ [新型コロナウイルス感染・濃厚接触者等報告フォーム]

### 「3密」を避けよう



### 咳エチケット



ソフトテニス部

## 久保田・原ペアが関東学生V

## リーグ戦でも好成績、女子は念願の1部昇格

国学院大学ソフトテニス部がリーグ戦などの関東大会で好成績を収めた。

4月30日から5月4日に行われた第29回関東学生シングルス選手権大会では、同部男子の下田好輝選手(史4)、女子の濱島怜奈選手(初教1)と高嶺心萌選手(中文1)がそれぞれベスト8に入る活躍を見せた。

5月7、8日に行われた関東学生リーグ戦でも



1部昇格の国学院大学ソフトテニス部女子

男女とも健闘した。同部男子は全6大学の男子1部リーグに臨み、初戦で日本体育大学に惜しくも敗れたが、続く明治大学、法政大学、早稲田大学に3連勝とする。最終の東京経済大学戦では接戦に勝利し、4勝1敗・勝点4で準優勝となった。同部女子は、同じく全6大学の女子2部リーグに出場し、安定したプレーで各大学を圧倒。4戦全勝(1校失格)で優勝を果たすと、21日には1部昇格をかけた入替戦で1部6位の慶応義塾大学と対戦。ここでも安定した試合運びで勝利を収め、1部リーグ昇格を決めた。

5月9、10日にはダブルスの第73回関東学生ソフトテニス選手権大会が開催され、女子部門で久保田茜選手(日文2)・原千晴選手(中文2)ペアが優勝し、関東学生一に輝いた。同ペアは準々決勝で前回優勝の強豪、桐山茉衣子選手・村上



関東学生一の久保田選手(右)・原選手(左)

亜優勝ペア(日本体育大)を破り、決勝も浪岡菜々美選手・生井沢日向子選手ペア(同)との激戦を制し全134ペアの頂点に立った。同部は女子4ペア、男子2ペアがベスト32に入り、9月に山口県で開催される全日本学生ソフトテニス選手権大会の出場権を獲得した。

卓球部

## 関東学生リーグ 男女とも2部準優勝

関東学生卓球リーグ戦で男女とも2部に所属する国学院大学卓球部は、5月11日から13日に所沢市民体育館(埼玉県所沢市)で行われた春季リーグ戦に臨んだ。

男女2部リーグは全6大学で争われ、各大学と最大7試合で対戦し先に4勝した大学が勝利となる方式。同部男子は、11日の初戦で日本大学に1-4で敗れたものの、次の東洋大学戦では4-1と勝利。12日には大正大学、慶応義塾大学と対戦し、それぞれ第7試合までもつれる接戦となったが、いずれも4-3と試合を制した。13日の埼玉工業大学戦も4-1と勝利を収め、4

勝1敗でリーグ2位となった。

女子2部リーグは1校が棄権し、全5大学で実施。11日は初戦の大正大学に4-3、第2戦の東京女子体育大学に4-0と連勝すると、12日には優勝を争う日本体育大学と対戦。第4試合まで一進一退の争いとなるが2-4で敗れ、3勝1敗でリーグ2位となった。

この結果から、同部男女は1部7位校との入替戦に進出。6月4日に新座市民総合体育館(埼玉県新座市)で男子は法政大学、女子は筑波大学と対戦し、それぞれ惜しくも敗れ1部昇格はならなかった。



今季シングルス全勝の渡辺凱選手(初教2)〈写真提供:ニッタクニュース〉

ラグビーフットボール部

## 女子選手2人「桜のジャージ」目指し切磋琢磨

## 小坂海歩選手、小山晶子選手(ともに健体2)

関東大学ラグビーリーグのリーグ戦グループに所属し1部昇格を目指す国学院大学ラグビーフットボール部で2人の女子選手が活動している。ともに学外のクラブチームでプレーし、2025年の女子ワールドカップでの日本代表入りを目指して切磋琢磨している。

2人は小坂海歩選手(健体2)と小山晶子選手(同) = 写真右から。大柄な体格を生かしてボール奪取を狙うフォワード(FW)を担い、スクラムなどでは最前列で相手FWとせめぎ合う。

父親がラグビースクールで指導者をしてきた小坂選手は小学1年でラグビーを始め、中学時代には神奈川県代表として全国制覇を経験。「体格に勝る男子と一緒に練習でき、学ぶことが多く成長できる」と国学院大学栃木高校に進学し、3年次にはキャプテンも任された。本学への進学と同時に憧れの選手が所属する東京山九フェニックス(渋谷区)に加わってプレーしている。

一方、小山選手は都立石神井高校の新入生歓迎会で「ノリが良く楽しそうで、体が大きい私の個性が活かせる」と未体験のラグビーに興味を覚えて入部を決意。女子部員は数人

と単独チームを組めなかったが、先輩が所属するクラブチームのプレイブルーヴ(府中市)でラグビーにのめり込んできた。

ラグビーとの出会いも経験も異なる2人だが、女子チームが組める他大学ではなく本学を選んだのは将来を見据えてのことだ。「体育教員になり女子ラグビーを指導したいが、学生時代は幅広く勉強して見識や将来の可能性を広げたい」(小坂選手)、「将来の夢はまだ定まっていないが、自分に合った大学で4年間しっかり学びたい」(小山選手)と2人は語る。本学ラグビー部では一部の練習に参加しつつマネージャーとしてもチームを支え、時には2人で分析しながらフィードバックできそうな戦略やスキルを「盗む、ことにも取り組んでいる。

日本代表入りを目指す2人は今春、日本ラグビーフットボール協会



主催の「TID(Talent IDentification=人材発掘・育成)」キャンプに参加した。ユースキャンプに参加した小山選手は「全国から選手が参加する合宿は初めて。『サクラフィフティーン(15人制女子代表)になりたい』という同じ目標を持った選手と過ごしたことは得難い経験」という。1ランク上のキャンプで代表候補との練習もこなした小坂選手は「代表監督から『今のままでは海外

チームに通用しない』と指摘されたが、『桜のジャージを着て世界の舞台で勝つ』ために代表選手は選ばれるのだと気付かせてもらった」と決意を新たにする。

裾野がまだ広いとは言えない女子ラグビーの世界で「近くにいるからこそ、選手としては負けたくない」(小山選手)と語る2人は、互いの存在を刺激に、ともに日本代表として世界に挑む未来を見据えている。

インタビューの詳細は「国学院大学メディア」で公開

K:DNA——創立140年目を迎えた国学院大学の**遺伝子**…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

## 陸上競技部

# 関東インカレ 伊地知選手 ハーフマラソン優勝

第101回関東学生陸上競技対校選手権大会が5月19日から22日に国立競技場（東京都新宿区）などで行われた。2部に所属する国学院大学陸上競技部は、男子ハーフマラソンで伊地知賢造選手（健体3）が優勝、5種目で入賞するなど活躍した。

19日に行われた男子10000mでは、中西大翔選手（健体4）が28分35秒87で5位（日本人3位）、平林清澄選手（経営2）が自己新記録の28分36秒32で6位（同4位）に入賞。2選手は序盤から先頭集団でレースを進め、平林選手は7000m過ぎに先頭に立ちペースを上げる積極的な走りをみせた。中西選手は後半で先頭集団から離されるも、残り1周から見事な追い上げをみせ、最後の直線では2選手が競り合いながらゴールし、中西選手がわず



男子10000mで入賞した中西選手（左）と平林選手（右）

かに先着した。

20日には、男子1500mで鈴木景仁選手（初教3）が3分47秒49で4位となった。レース後半で先頭が激しく入れ替わる中、残り200mから粘りの走りをみせた。短距離も奮戦し、男子4×100mリレーでは村松駿選手（健体2）・村田愛武選手（史2）・大洲蒼空選手（健体2）・古川翔理選手（健体3）とバトンを繋ぎ、41秒07の4位となった。予選では本学記録に並ぶ41秒04をマークする好調さで、平成3年の第70回大会以来31年ぶりに同種目入賞を果たした。男子110mハードルでも田中遼仁選手（健体3）が予選、準決勝と突破し決勝では14秒90で7位となった。

22日には、男子ハーフマラソンで伊地知選手が1時間2分50秒で優勝を飾った。伊地知選手はスタート直後から先頭集団に位置すると冷静にレースを進め、満を持して15km過ぎにペースアップ。先頭に躍り出ると18km過ぎにはさらにペースを上げ独走態勢を築き、並みいる駅伝強豪大学の選手たちを振り切る会心のレースにガッツポーズでゴールした。本学選手の同種目優勝は第98回大会の土方英和選手（令2卒・128期健体、ホンダ）に続き2人目。鶴元太選手（史2）も1時間3分14秒の自己新記録で8位となった。



男子ハーフマラソン優勝の伊地知選手（写真提供…月刊陸上競技）

## 柔道部

# 東京学生柔道優勝大会 7年ぶりベスト8

男子第71回東京学生柔道優勝大会（主催・東京学生柔道連盟）が5月29日、東京都千代田区の日本武道館で開催され、国学院大学柔道部は7年ぶりにベスト8となった。優勝は東海大学で28度目。

この大会には、優勝した東海大学をはじめ強豪大学が参加。同部は中止となった69回大会を除き6年連続でベスト16となっていた。試合は7人による団体戦で行われ、同部は1回戦で東洋大学と対戦。先鋒の齊本研アレクサンドル選手（健体4 = 写真）、次鋒の

後藤颯太選手（健体1）と引き分けとなり、3人目の五将、騰川雄一郎選手（法3）が巴投げで技ありを奪い勝利。続く4選手も引き分けとし、1勝を守りきり1-0で二回戦進出、ベスト8を決めた。二回戦では日本体育大学と対戦。5人目の寺島悠太選手（健体3）が払い腰で一本を取り勝利するも1-4で敗れた。

同部はこの大会の結果、6月25、26日に日本武道館で開催される全日本学生柔道優勝大会への出場権を獲得した。



## 硬式野球部

# 東都大学野球1部春季リーグ 2位

国学院大学硬式野球部が所属する東都大学野球1部春季リーグは6月4日に全日程を終了した。第4週で27度目の優勝を決めた亜細亜大学を除く5校は勝敗が拮抗する混戦のなか、同部は6勝6敗0分、勝点2（勝率0.500）で2位となった。

第5週の5月11日に駒沢大学との第一戦に臨んだ同部は、一回裏に2点を先制されるも二回表に伊東光亮選手（経2 = 写真）の安打などで1死一・三塁とす

ると、神里陸選手（神文2）のスクイズで1点を返し1-2とする。その後、追加点を奪われ1-5で迎えた八回表、2死二塁から伊東選手が適時二塁打を打ち1点を返すも追撃及ばず、2-5で敗れた。第6週、5月20日に行われた第二戦では0-4で敗れたものの、同部は2位を守りきった。春季シーズンを通じ、攻守の要となった伊東選手は二塁手のベストナインに選出された。